



帰国生の学校選び A to Z

●第26回●

帰国生の多い高校のメリット・デメリット

前は帰国生の多い高校についてご紹介しました。帰国生の最も多い高校は536人の同志社国際高校で、全校生徒に占める比率では88.2%の南山国際高校が最も高いです。ただし、このような高校は決して多くはなく、帰国生受け入れ高校416校中で、帰国生が50人以上の高校は36校、20人以上は65校です。また、全生徒に占める比率も10%以上は16校、5%以上は48校です。大多数の高校の帰国生数は10人以下で、全生徒に占める比率も1%以下です。これは多数の帰国生が帰国生の多い高校に集中していることを表しています。*海外女子教育振興財団のデータ(2012年度)より

帰国生の多い高校では自分に似た境遇の生徒が多いので学校生活にも順応しやすいですし、帰国生に合わせた授業もあり負担が軽く、海外で培った英語力を維持する環境もあるところが目立ちます。また、入試も作文や面接のみだったり、英語力を重視してくれたりするところもあり、帰国生には魅力的です。

一方で、帰国生の多くない高校では、帰国生向けの授業やサポートがなく、学校生活になじむのが大変なこともあります。入試でも英語、数学、国語の3教科の学力を重視する学校が目立ち、理科や社会を含めた5教科を課す学校もあります。

ただし、帰国生の多い高校では、一人ひとりのサポートがきめ細かくない、入学後も日本語での学力が伸びない、大学受験をするのにふさわしい環境とは言えないというような問題を抱えていることもあります。一方で、帰国生の多くない学校には、一人ひとりのサポートが行き届いているし、英語力を維持できるプログラムがある、多数の国内生に囲まれるので日本語力の向上が早いというようなメリットのある学校もあります。大学受験でも帰国生入試ではなく一般入試で国立大や難関私立大に合格する生徒が目立つ高校もあります。

帰国生が多いから帰国生に合っているとか、少ないから合っていないというように判断しないで、学校の教育方針やカリキュラム、帰国生のためのサポート、入学試験、卒業後の進路などを綿密に調べることが重要です。

執筆者：丹羽 筆人（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国ではCA・NY・NJ州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail nihs@ujec.org Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)